

聞光 死について

信楽雅弘

昨年十二月ひかり幼稚園六〇周年の記念に、映画「おくりびと」の原作となった「納棺夫日記」の著者、青木新門氏と、元NHKアナウンサー室長・ことばの杜代表の山根基世氏にお越しいただき、トークをして頂きました。その内容の後半をお届けいたします。「死について」のお話ししたので、お目通し下さい。

青木：最後に、みんなでシャボン玉という歌を歌うようですが、あのシャボン玉は野口雨情が自分の子どもを亡くした。一週間ほどで我が子が死んだときに作った歌ですね。子どもをシャボン玉に見立てて、屋根まで飛ばすにこわれて消えたと。そこにやはり、あの歌にはあの歌の言葉の中に、重い重い、深い深い思いがあるわけです。それが込められた言葉だからこそ、こうして歌い続けられるのです。

葬儀の現場で仕事していたときに、人間は二つに分かれると

思いました。死を忌み嫌い、死を畏れ不安がる人と、そうでない人に別れます。ローマの哲人のセデカが「人が死を畏れたり不安がったりするのは、死そのものに對してではなくて、死の付随物をみて畏れる」と言われています。多分そうなのだろうと思います。

目の中の死を見つめたキュヌブラーロスやマザーテレサや宮沢賢治はみんな死に對してきれいなイメージを持っていて、死はきれいなイメージで言えば、死ぬ瞬間をみている。死体をみているのではないからです。

山根：今特に子ども達の目から死というものが遮られています。死がもつと生の一環として子どもの時から、人生観の中に自然に入るべきだと言っておられましたが、そういう願いが「つららの坊や」の中には込められているんでしょね。

青木：死を扱っていいながら、そこにぬくもりを感じるような作品はできないかと思っ書いてきたのが

「つららの坊や」なんです。

「死をどう考えていくか」青木：近頃つくづく思うのですが、生と死と分けるからおかしくなると思っています。

おくりびとを作った元木雅弘君がインドベナレスへ行っ、ここでは生と死が当たり前のようにつながっているという。それが原点で私の本の中の「ウジが光って見えた」という言葉を選んで、そこから会話が始まってあの映画ができてきた。だから生と死を分けると



「何らかの形で死を乗り越えた人の生き方は明るい」というゲーテの言葉がある。老とか病とかというの死がないということならばこんな楽なことはない。病院へ行っって何にもしないで寝ていればよくて、死なないっていいんだから。死を解決しないんだめです。マザーテレサが日本へ来て「こんなに美しくこんなに豊かな国なのに、世界中で一番日本人はくらい顔をしているのは、死の問題を解決してないからだと思います。」と言いました。死の問題を解決すると明るく生きれます。これがどれだけ難しい問題で、そこに必ず宗

「つららの坊や」なんて、死をどう考えていくか」青木：近頃つくづく思うのですが、生と死と分けるからおかしくなると思っています。おくりびとを作った元木雅弘君がインドベナレスへ行っ、ここでは生と死が当たり前のようにつながっているという。それが原点で私の本の中の「ウジが光って見えた」という言葉を選んで、そこから会話が始まってあの映画ができてきた。だから生と死を分けると

「つららの坊や」なんて、死をどう考えていくか」青木：近頃つくづく思うのですが、生と死と分けるからおかしくなると思っています。おくりびとを作った元木雅弘君がインドベナレスへ行っ、ここでは生と死が当たり前のようにつながっているという。それが原点で私の本の中の「ウジが光って見えた」という言葉を選んで、そこから会話が始まってあの映画ができてきた。だから生と死を分けると

教と云うことがかかわってくる。

山根：私、これは二週間で誤診だとわかったのですが、ガンの四期だと言われたことがあるんです。その時はじめて本当に自分の死と云うことを我がこととして考えたんです。その時はじめてお墓のこととお葬式のことか考えたんですが、そこで一所懸命考えて、家族とお墓はこうして、お葬式はこうしてというふうに考えて以降、むしろ明日であっても不思議ではないんだなと、ある覚悟みたいなのが生まれて、私にできること、子どもの言葉を育てることかを一所懸命やっってそこで倒れてもそれでまあいいわけだと、多分少思いうようになったわけなんです。これも再びまた再び明日死ぬよと言われれば、どうゆれるかわかりませんが、少なくともそういう体験をしたという事は活かされたと思っいます。

私も六二ですが、歳の順ではないですし、私よりも若い人が亡くなっっていく人もたくさん

青木：ここへ来る

のを本当に楽しみにしてききました。あちこちで講演してききましたが、ほとんどどこも七〇歳以上で、幼稚園の子ども達と会

安楽寺法要案内		
六月	永代経	日時 6月17日(金) 朝・昼 6月18日(土) 朝・昼 講師 兵庫 常徳寺 杵築宏典師 テーマ 「往生とはどういうことか」
	安居会	日時 7月17日(日) 朝・昼 講師 明法寺支坊 熊谷純行師 テーマ 「凡夫とはどういうことか」
八月	教喜会	日時 8月13日(土) 10:00 8月14日(日) 10:00 講師 信楽峻宮前住職 テーマ 「先祖の日に思う」
	彼岸会	日時 9月18日(日) 朝・昼 講師 五日市 光乗寺 渡邊幸司師 テーマ 「いのちを生きる」

夏の集いのご案内
今年も夏の集いを開催いたします。今年もテレビで活躍中の人形遣い安藤けい一さんが、親鸞聖人と弁円の物語を人形劇で見せて下さいます。是非ご参加下さい。(あらためてご案内します。)
日時：8月3日(水) 18:00~21:00
18:00~ 人形劇「弁円のなみだ」
19:00~ ビヤガーデン